

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	文化財啓発事業					担当部	教育委員会事務局				
	会計区分	一般会計			事業類型	一般	担当課	文化振興課				
	事業期間	平成19年度			～	平成30年度以降		担当係	文化財係			
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		15 文化振興		3 小牧固有の歴史・文化遺産を保全・活用します					
		副目的	30-1									
	予算区分	款	10	項	5	目	6	大	2	中	2	
	根拠法令・個別計画	文化振興ビジョン										
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	文化財の発掘調査だけでなく、市内に残る貴重な文化財、古文書等を調査、研究することにより、小牧の歴史遺産を後世に伝える。										
内容 (手段)	<p>◆25年度実施内容</p> <p>○文化財啓発事業調査研究委託 埋蔵文化財以外の文化財の調査や、利活用を含めた下記の啓発事業を学校法人 足立学園（愛知文教大学）に委託して実施した。 職員は委託業務に関する諸手続きや、講座の受講受付や広報、会場の調整等を行った。</p> <p>【委託業務内容】 連続歴史講座 6回（うち1回は現地見学） 延べ1,207名受講 古文書入門講座 前期・後期 計14回 延べ607名受講 歴史基礎講座（65名受講）、古文書基礎講座（46名受講） 各1回 第3回小牧市古文書展「信長文庫展」 平成25年9月25日～9月29日 ラピオ4階市民ギャラリー 224名来場 文化財資料の整理 他</p> <p>○民俗資料等展示委託 もの作りの原点である各種の道具類に触れ、動かす体験を通じて、道具の大切さを知ってもらう目的で、子どもを対象に開催した。 小牧の民具展「くらしのぬくもり」 平成26年2月22日～3月2日 ラピオ4階市民ギャラリー 1,000名来場</p> <p>○信長・夢フォーラム開催委託 近年の発掘状況や調査成果を広く周知し、史跡小牧山の歴史的価値を見直すとともに、貴重な文化遺産をどのようにして守り活用しながら後世に引き継いでいくのかを啓発することを目的に開催した。 「こまぎ信長・夢フォーラム 信長のまちづくり～新しい時代の扉～」 平成25年9月22日 小牧市市民会館ホール 1,300人来場 内容：記念落語会、講演「史跡整備～最新の動向と事例～」、報告「小牧山城の調査と整備」、シンポジウム「小牧山城～よみがえる信長の夢～」</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 文化財啓発事業調査研究委託（15,000千円） 民俗資料等展示委託（807千円） 信長・夢フォーラム開催委託（5,000千円）</p> <p>◆26年度直接経費の内訳 文化財啓発事業調査研究委託（15,000千円） 信長・夢フォーラム開催委託（2,500千円）</p>											
受益者負担	有 古文書入門講座（後期）教材費：2,000円、連続歴史講座 現地見学参加費 2,500円											

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	12,900	15,000	20,807	17,500	
		正職員	従事者数	人	0.15	0.15	0.15	0.15
			人件費	千円	789	789	789	789
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	13,689	15,789	21,596	18,289		
	対前年比	%		115.3	136.7	84.6		
財源	一般財源	千円	13,689	15,789	21,596	18,289		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	講座回数	回	目標	15	25	25
実績				14	32	22	
	古文書調査	回	目標	—	—	—	—
			実績	39	59	14	
			目標				
			実績				
業	成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	受講者数	人	目標	500	500	700	1,000
実績			1,065	1,817	1,423		
	調査目録の発刊	冊	目標	—	—	—	—
			実績	1	1	1	

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	市内に残る貴重な文化財、古文書等を調査、研究をし、講座や講演会、企画展などを開催することにより、市民が歴史や文化財に触れ、学ぶ機会を提供できた。				
		事業実施における課題	講座や講演会の参加者が固定化され、幅広い市民に学ぶ機会を提供できていない。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	発掘調査以外の文化財の保護や、利活用、啓発の機会が減少し、講座や講演会など、市民が身近な場所で学ぶ場所の提供ができなくなる。				
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	現状で把握していた古文書の調査が概ね終了する予定のため、新たな古文書等の発掘、古文書以外の文化財についての調査・発掘について検討していく。				
平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)				
	判定理由	大学という専門機関の技術やノウハウを活用し、官学一体となって事業を行うことで、官学提携の協働を推進できるため。					
	27年度以降の改善案	今後も市民ニーズにあわせ、引き続き(埋蔵文化財以外の)文化財の調査や研究、啓発事業を積極的に実施し、情報を発信する。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 講座開催事業については、25年度に実施した経営分析の結果を基に改善に取り組むこと。